

セメント系無収縮グラウト材 《流動性保持性型・小間隙充填用》

「太平洋プレューロック SS」



本製品は弊社の標準的無収縮グラウト材「太平洋プレューロック」をベースとし、「流動性保持性能・小間隙充填性」を更に向上させた材料です。現場で長距離圧送する場合、製鉄所の高炉底面等の大断面施工、充填間隙が30mm以下の様な小間隙施工に適します。

1 特長

- (1) 高流動性 : 標準的な無収縮グラウト材と比較し、同等以上の優れた流動性を有します。
- (2) 流動保持性 : 流動性の保持性に優れ、条件にもよりますが約3～5時間の可使用時間が確保されます。
- (3) 無収縮性 : 酸化カルシウム系膨張材を適量混和しているため、無収縮性を示します。
- (4) 高強度 : 通常のコンクリートに比べ、高い強度発現性が期待できます。

2 用途

製鉄所高炉抵板充填 ポンプ長距離圧送充填 各種複雑形状充填
大型機械基礎充填 小間隙充填 各種大面積ベース下部充填 他

3 荷姿・物理的性質

形態	標準荷姿	使用細骨材	塩化物付与量 (kg/m ³)
プレミックス	25 kg/袋	珪砂（最大粒径=1.0mm 以下）	0.30 以下

4 標準配合例

区分	使用温度範囲	太平洋プレューロック SS	練混ぜ水量	練上り量
単位量 (kg/m ³)	5～35℃	1,677 kg	393 kg	1,000 (約 67 袋) L
1 袋あたり		25 kg (1 袋)	5.9 kg	約 14.9 L

注1) 外気温度、材料温度等により目標とする流動性を得るための水量が若干増減しますので、試験練り等で確認して下さい。

注2) 練混ぜは 800 回転以上の高速ミキサー（7L 製羽根の使用不可）を使用し、全材料投入より 2 分程度練混ぜを行って下さい。

注3) 目標とする練上げ直後のコンシステンシー（流動性）は、テーブルフロー値で 290～350mm 程度を目安として下さい。

5 物性試験結果の例

試験項目	試験方法	試験結果			
		側点	5 °C	20 °C	30 °C
テーブ [®] フロー値 (コン引抜後のフロー)	JIS R 5201 に準拠	直後 1 時間後 2 時間後 3 時間後 4 時間後 5 時間後	320 mm 298 mm 295 mm 290 mm 285 mm 275 mm	333 mm 316 mm 313 mm 310 mm 305 mm 295 mm	321 mm 324 mm 319 mm 317 mm 305 mm 295 mm
ブリーディング [®] 率	JIS A 1123 に準拠	2 時間後 最終	0.0 % 0.0 %	0.0 % 0.0 %	0.0 % 0.0 %
膨張収縮率 (マイクロメータ法)	JIS-312 に準拠	1 日後 3 日後 7 日後	+0.12 % +0.12 % +0.12 %	+0.15 % +0.15 % +0.15 %	+0.18 % +0.18 % +0.18 %

試験温度 養生温度	圧縮強度 (N/mm ²)				
	24 時間	48 時間	3 日	7 日	28 日
5 °C	—	3.6	12.8	27.1	44.9
20 °C	18.7	30.8	38.9	48.2	64.2

* : 本製品の仕様は予告なしに変更することがありますのでご了承下さい。

* : 上記に記載された事項・数値は、弊社の試験結果に基づくものでありますが、各種条件により実際の現場結果を確実に保証するものではありません。

□ 使用上の注意事項

- 1) アルミ製羽根のミキサは使用しないで下さい。アルミ部材が磨耗し、施工後モルタルが異常膨張することがあります。
- 2) 充填中は必ず充填状況の確認をして下さい。充填後、露出部分は湿潤養生を行って下さい。
- 3) 高温時の施工の際は、本製品に直接日光等が当たらないよう措置を講じて下さい。
- 4) 保管については、雨露等がかからず湿気の少ない場所を選び、パレット等を敷き床面から離れた状態でビニールシート等で覆って下さい

□ 安全上の注意事項

- 1) 本製品はセメントと同様にアルカリ性を示します。使用の際は、眼・鼻・皮膚及び衣類に触れぬよう保護具を着用の上ご使用下さい。
- 2) 誤って眼に入った場合は、直ちに清水で充分洗浄した後、医師の治療を受けて下さい。
- 3) 皮膚に付着すると肌荒れを起こすことがありますので、直ちに水洗いして下さい。
- 4) 作業後は手洗い、うがいをして下さい。
- 5) 本製品および施工後の洗浄水等は、海・河川・下水道等への廃棄はしないで下さい。